

子供たちの知的好奇心を刺激する

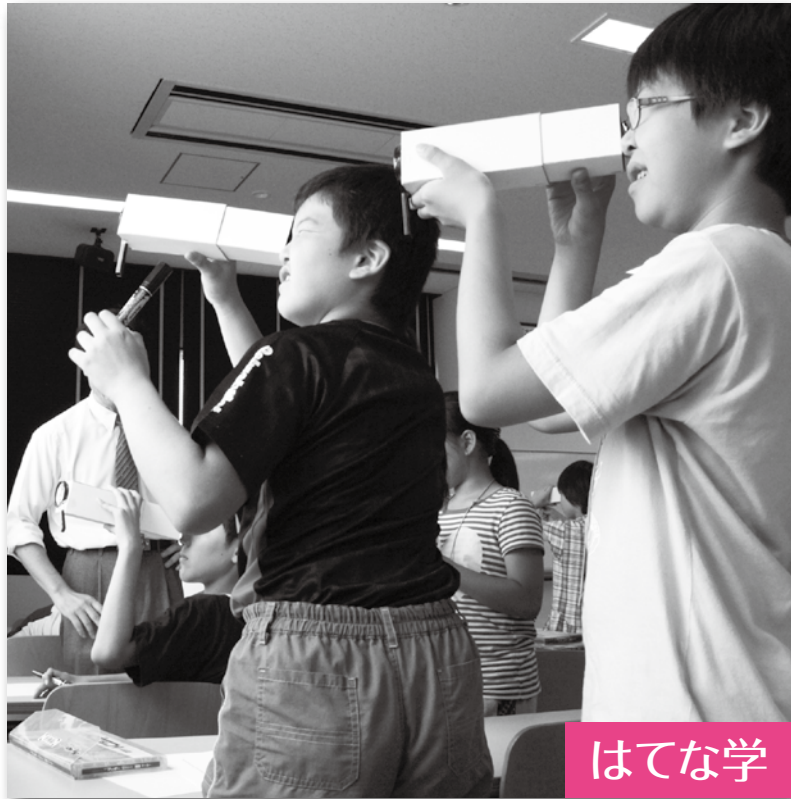
# 「子どもも大学ぎょうだ」GO! GO! GO! GO! GO!

子供たちが素朴に「なぜ？」と疑問に思うことを、大学教授をはじめ専門家の皆さんが丁寧に教えてくれる「子ども大学ぎょうだ」。ここで学んだ子供たちは、どんなことにも興味を持って、自分自身で考える力身に付けています。疑問を持つこと、自分で考えることは、新たな発見を生み出す原動力となります。子供たちの夢をはぐくみ、知的好奇心を刺激する「子ども大学ぎょうだ」で学んでみませんか。

ワクワクがいっぱい  
「子ども大学ぎょうだ」

本市では、埼玉県・ものづくり大学・NPO法人子育てネット行田・行田市民大学と連携して、市内の小学4～6年生に学校とは一味違った学びの機会を提供する「子ども大学ぎょうだ」を開設。今年度で3年目を迎え、これまで延べ125人が修了しました。子供たちからは「ワクワクして学ぶことができた」と好評です。

同大学では、物事の原理や仕組みを追求する「はてな学



はてな学

## ものづくりの原理や 仕組みを追求

子どもの興味や関心が高まるのは、単に未知で奇抜なものというだけではありません。「はてな学」の内容は、子供たちにとって身近なもの、社会的に関心が高いものなどを選定しています。平成22年度は完成間近の東京スカイツリーを取り上げ、模型を使いながら、なぜ巨大な高層建築物でも地震に強いのかを解説したり、今年度は省エネルギーにつながるLEDライトについての講義を行ったりしました。



かりん  
本田花梨さん  
(泉小5年)

「家のあかりを上手に使おう」という授業がおもしろかったです。「虹を見る箱」を作り、蛍光灯に向けてのぞくと虹が見えました。とても不思議な体験でした。また、LED電球と豆電球の明るさを比べたりしました。この授業を受けた後は、家の中の電球に注目するようになりました。色の違いで、何の電球を使っているのかわかるようになりました。





平成24年度の修了生の皆さん

な学」、地域を知り郷土愛を育てる「ふるさと学」、自分を見つめ人生や将来について考える「生き方学」の3分野について学びます。講師を務めるのは、大学教授や学芸員などのスペシャリスト。体験学習などを取り入れたプログラムになっているので楽しく学ぶことができます。

また、講義だけでなく学園祭を開催し、多くのお客さんと交流を図ったり、県内の子ども大学の成果を発表し合い、子ども同士の交流を深めたりする発表・交流会も行われています。



生き方学



ふるさと学

**自分を見つめ人生や将来について考える**

内容が広範囲に渡る「生き方学」は、毎年内容を絞り、学んだことがすぐに実践に結びつく実学を行っています。

平成22年度は古いガス管をリサイクルしたもののづくり、平成23年度は防災学習センターで災害から身を守る体験を実施。そして、今年度はテクノ・ホルティ園芸専門学校で植物の講義と観葉植物の寄せ植え体験や、行田市民大学卒業生による朝ごはんの重要性を訴えた紙芝居の鑑賞などを行いました。

**地域を知り郷土を愛する心を育てる**

本市は、古代から近代までさまざまな歴史的な文化遺産が数多く点在する歴史の宝庫です。「ふるさと学」では、県立さきたま史跡の博物館や郷土博物館の学芸員による講話に加え、館内見学、映画鑑賞、勾玉作り、古代の服を着る体験など、バラエティに富んだ学習形態を取り、体験しながら郷土に対する誇りと愛着を持てるような内容となっています。



倉崎葉月さん  
(太田東小6年)

テクノ・ホルティ園芸専門学校で行った「花を上手に育てるコツ」という授業が、私は印象的でした。

この授業で初めて花の寄せ植えを行いました。自分で花を選んだり、土に触れたりしながら、かわいらしい作品を作り上げていくところが楽しかったです。

寄せ植えを行う中で、花には根が強いものや弱いものなど、いろいろな性質があることが分かりました。



ただよし  
石川禎至くん  
(東小6年)

僕は郷土博物館で足袋産業についての映画を鑑賞したことが今に残っています。

現在は、あまり足袋は作られていないけれど、かつては有数の足袋の産地だったことが分かり、昔の行田の様子を振り返ることができました。行田のまちに足袋蔵がたくさんあることも、この授業で「なるほどな」と思いました。